

## 蓼科の俳句を作る

長野県俳人協会 窪田英治先生

実施日：令和4年7月4日（月）



長野県俳人協会の窪田英治先生を講師に招き、俳句の作り方を教えていただいた。「五七五」の短い音の中に、個人的体験・社会的背景・作り手の好みなど、大事なものがたくさん詰まっていることを知った。特に、「優しい気持ちをもつ」や「希望を持ち続ける」、「意識して見る・聞くことで好奇心が見につく、何かに夢中になることが大切」ということを教えていただいた。後半は、「ふるさと」や「学校生活」などを題材に、真剣に考える生徒の姿が印象的だった。

### 【生徒の授業日誌より】

・外国人も俳句を楽しんでくれているのを聞いて、とても嬉しく感じました。小1から中3まで通っていた塾の先生が俳句をやっていたので懐かしく思いました。俳句は人の優しい心を表していることを改めて感じました。

・俳句のルールは5・7・5だけだと思っていたのですが、季語も入れて俳句になるということがわかりました。俳句は文章と同じものって思っていたが、俳句にはリズムがあり、文章とは違うものだった。とても短いけど、とても難しい。

・俳句にもいろいろあって、難しい漢字も多いし大変だなと思いました。長野県の人が作った俳句のレベルが高すぎてびっくりしました。こんな短い言葉なのにいろいろな意味があって、その意味を読む人に伝えるのって難しいのに、いろいろな形で意味を伝えていてすごいと思いました。

・俳句を作ってみて、言葉の大切さや意識することを学ぶことができました。言葉を知らなければ理解することはできない。意識しなければ聞いたことにならないということをお聞きし、とても共感しました。ただ聞いているだけでは、右から左で、内容が抜けていることだと思いました。

・数学、理科、社会などの強化はすべて言葉（国語）の力がないとわからない。考える力をつけることも言葉（国語）に繋がってくるということがわかりました。